

2009年9月19日

沖縄国際大学「うまんちゅ法律講座」第8回

歴代那覇地裁・那覇家裁所長 から裁判官人事を考える

明治大学政治経済学部 西川伸一

nisikawa1116@gmail.com

本レクチャーの概要

1. 沖縄の裁判所制度
 - 1) 裁判所行政とは
 - 2) 沖縄県内の裁判所
 - 3) 沖縄の裁判所制度の沿革
2. 歴代那覇地裁・家裁所長
 - 1) 歴代所長リスト
 - 2) 級班区分と就任形態
 - 3) 那覇地裁・家裁所長の傾向的特徴
3. 「北海道方式」の採用
 - 1) 平田清祐の提言
 - 2) 所長と定着地の関係
 - 3) 「ブーメラン勤務地」のこれから



平和の礎のHPより

裁判所行政(司法行政)とは

1. 人事管理(裁判官・書記官、事務官など)
2. 裁判所の組織運営
3. 裁判所庁舎の施設管理
4. 裁判所の財務(予算・会計など)

裁判所職員	定員(2008年度)
裁判官	3491人
一般職	22086人
合計	25577人



★研究のきっかけは、敗訴の「私怨」

cf.拙著(2005)『日本司法の逆説』五月書房。

地裁・家裁所長に注目する

- 判事が補される
- 裁判所行政に専念

★那覇地裁所長、家裁所長ポストの特徴は

沖縄県内の裁判所

福岡高裁那覇支部

那覇地裁(本庁)

那覇家裁(本庁・**所長専任庁**)

那覇地家裁名護支部・沖縄支部・
平良支部・石垣支部

→支部は審級としては本庁と同等



那覇地裁:裁判所のHPより

米軍施政下の裁判所制度

- 1950年7月13日 米国軍政府特別布告

第38号「民裁判制度」

★米軍布告による琉球民裁判所制の確立

→琉球上訴裁判所と巡回裁判所の二審制

- 1968年1月1日 琉球政府立法院が裁判所法を制定

→琉球高等裁判所と下級裁判所(地裁・家裁)の二審制

★初代高裁首席判事: 平田清祐

復帰後の裁判所制度

- 琉球高等裁判所→1972.5.15→福岡高裁那覇支部
札幌高裁函館支部の廃止(1971.7.31)とセット
初代那覇支部長:藤井一雄(前東京高裁判事)
- 那覇地方裁判所→1972.5.15→那覇地方裁判所
初代裁判所長:平田清祐(前琉球高裁首席判事)
- 那覇家庭裁判所→1972.5.15→那覇家庭裁判所
★独立家裁、ただし初代所長は平田清祐が併任
1972.9.11～入江啓七郎(前福岡高裁判事)

歴代那覇地裁所長

No.	氏名	生年	性別	出身大学	期	級班	定着地	任	免	形態	最終到達ポスト	叙勲	備考
1	平田 清祐	1910	男	日大	試補27		(福岡)	1972.5.15	1975.10.19		那覇地所長	勲二等瑞宝章	琉球高裁首席判事
2	高石 博良	1925	男	京大	3	A2	福岡	1975.10.20	1977.3.31	c	福岡高総括	勲二等瑞宝章	
3	日野原 昌	1926	男	京大	3	S3	東京	1977.4.1	1978.5.19	e	大阪高総括	勲二等瑞宝章	
4	廣木 重喜	1926	男	九大	4	A1	東京	1978.5.20	1980.6.29	e	大阪高総括	勲二等瑞宝章	
5	石田 穰一	1928	男	東大	5	S3	東京	1980.6.30	1982.4.10	e	東京高長官	勲一等瑞宝章	
6	秋吉 稔弘	1925	男	中大	6	A2	東京	1982.4.11	1984.2.29	e	東京高総括	勲二等瑞宝章	
7	高木 典雄	1928	男	中大	7	A1	東京	1984.3.1	1985.4.2	e	東京高総括	勲二等瑞宝章	
8	大久保太郎	1928	男	東大	8	S3	東京	1985.4.3	1987.5.27	e	東京高総括	勲二等瑞宝章	
9	佐藤 邦夫	1933	男	東北大	9	A2	東京	1987.5.28	1989.5.31	e	仙台高総括	勲二等瑞宝章	
10	真栄田 哲	1930	男	京大	外 I	S3	東京	1989.6.1	1991.1.4	e	水戸家所長	勲二等瑞宝章	
11	大城 光代	1933	女	日大	外 I	A2	福岡	1991.1.5	1994.3.7	c	横浜家所長	勲二等瑞宝章	
12	上原 吉勝	1936	男	琉球大	外 I	A2	東京	1994.3.8	1996.11.30	e	宇都宮家所長	瑞宝中綬章	
13	河辺 義正	1943	男	中大	19	A1	東京	1996.12.1	1998.12.23	f	東京高総括		
14	北山 元章	1944	男	京大	21	A1	東京	1998.12.24	2000.3.4	e	福岡高長官		
15	瀧川 義道	1941	男	中大	20	A2	大阪	2000.3.5	2002.1.24	f	大阪高総括		
16	照屋 常信	1943	男	琉球大	外 I	A2	福岡	2002.1.25	2003.8.23	d	那覇地所長		依願退官
17	浜崎 裕	1945	男	京大	22	A2	福岡	2003.8.23	2004.12.18	d	福岡家所長○		
18	藤村 啓	1945	男	早大	26	A1	東京	2004.12.19	2006.6.18		東京高総括○		
19	打越 康雄	1946	男	中大	26	B1	東京	2006.6.19	2007.6.30	f	那覇地所長		依願退官
20	小林 正明	1949	男	京大	26	A1	札幌	2007.6.30	2009.1.15		熊本地所長○		
21	亀川 清長	1946	男	九大院	27	A2	福岡	2009.1.16	○				

歴代那覇家裁所長

No.	氏名	生年	性別	出身大学	期	級班	定着地	任	免	形態	最終到達ポスト	叙勲	備考
1	平田 清祐	1910	男	日大	試補27		(福岡)	1972.5.15	1972.9.10		那覇地所長	勲二等瑞宝章	琉球高裁首席判事
2	入江啓七郎	1916	男	早大	試補27		(福岡)	1972.9.11	1974.12.22		長崎家所長	勲二等瑞宝章	
3	高石 博良	1925	男	京大		3 A2	福岡	1974.12.23	1975.10.19	c	福岡高総括	勲二等瑞宝章	
4	日野原 昌	1926	男	京大		3 S3	東京	1975.10.20	1977.3.31	e	大阪高総括	勲二等瑞宝章	
5	高野 耕一	1924	男	東大		5 A1	東京	1977.4.1	1978.5.19	e	東京高総括	勲二等瑞宝章	
6	美山 和義	1927	男	東大		5 B1	福岡	1978.5.20	1980.4.30	c	福岡高総括	勲二等瑞宝章	
7	緒方 誠哉	1923	男	不明		5 B1	福岡	1980.5.1	1982.3.29	f	福岡高総括	勲二等瑞宝章	
8	高木 典雄	1928	男	中大		7 A1	東京	1982.3.30	1984.2.29	c	東京高総括	勲二等瑞宝章	
9	大久保太郎	1928	男	東大		8 S3	東京	1984.3.1	1985.3.31	e	東京高総括	勲二等瑞宝章	
10	麻上 正信	1925	男	九大		8 A2	東京	1985.4.1	1987.1.31	f	那覇家所長	勲二等瑞宝章	依願退官
11	真栄田 哲	1930	男	京大	外 I	S3	東京	1987.1.31	1989.5.31	e	水戸家所長	勲二等瑞宝章	
12	大城 光代	1933	女	日大	外 I	A2	福岡	1989.6.1	1991.1.4	e	横浜家所長	勲二等瑞宝章	
13	生島 三則	1932	男	中大		14 A2	東京	1991.1.5	1993.3.31	c	広島地所長	勲二等瑞宝章	
14	上原 吉勝	1936	男	琉球大	外 I	A2	東京	1993.4.1	1994.3.7	e	宇都宮家所長	瑞宝中綬章	
15	寒竹 剛	1934	男	一橋大院		16 A1	福岡	1994.3.8	1996.5.20	f	那覇家所長	瑞宝中綬章	依願退官
16	中野 保昭	1933	男	早大		18 A2	東京	1996.5.20	1998.2.3	f	那覇家所長	勲二等瑞宝章	
17	北山 元章	1944	男	京大		21 A1	東京	1998.2.4	1998.12.23	e	福岡高長官		
18	瀧川 義道	1941	男	中大		20 A2	大阪	1998.12.24	2000.3.4	c	大阪高総括		
19	照屋 常信	1943	男	琉球大	外 I	A2	福岡	2000.3.5	2002.1.24	c	那覇地所長		
20	浜崎 裕	1945	男	京大		22 A2	福岡	2002.1.25	2003.8.22	c	福岡家所長○		
21	藤村 啓	1945	男	早大		26 A1	東京	2003.8.23	2004.12.18	e	東京高総括○		
22	西村 則夫	1949	男	京大		27 A1	東京	2004.12.19	2007.1.15	c	京都家所長○		
23	加藤 幸雄	1950	男	名古屋大院		29 A1	名古屋	2007.1.16	2008.11.8	e	金沢地所長○		
24	西 謙二	1948	男	一橋大		30 S3	東京	2008.11.9	○				

裁判官の級班区分

裁判官の級班区分

級	班	区分の指標
S	1	事務総局官房事務部局の局付と課長をいずれも経験した者
	2	局付と課長をいずれも経験した者
	3	局付と課長のどちらかを経験した者
A	1	最高裁調査官、司法研修所教官ないし判検交流を経験した者
	2	上記以外で大都市地裁・高裁勤務の長い者
B	1	上記以外で部総括の経験のある者
	2	上記以外で部総括の経験のない者

所長の就任形態

記号	就任形態	内 容
a	高裁長官待機	当該所長ポストの次に高裁長官に就任
b	登竜門	当該所長ポストを振り出しに高裁長官などへ栄進
c	中継点	当該所長ポストを経由してさらに別の所長へ
d	上がり	所長経験者が当該ポストを最後に、あるいはその後に高裁部総括を経由して退職
e	ブーメラン	定着高裁管内からいったん遠方の当該ポストに出されて、その後は定着高裁管内に戻って栄進
f	箔付け	所長未経験者が当該ポストで所長経験の箔をつけて、あるいはその後に高裁部総括を経由して退職

那覇地裁・家裁所長の就任形態例

c(中継点)=高石博良:・・・福岡地裁部総括→那覇家裁所長→那覇地裁所長・・・福岡高裁部総括→宇都宮家裁所長→福岡家裁所長→福岡高裁部総括→定年退官

d(上がり)=照屋常信:・・・福岡地裁部総括→那覇家裁所長→那覇地裁所長→依願退官

e(ブーメラン)=日野原昌:・・・東京家裁兼地裁→同部総括→那覇家裁所長→那覇地裁所長→東京高→前橋家所長→岐阜地家裁所長→大阪高裁部総括→依願退官

f(箔付け)=河辺義正:・・・大阪地裁→司法研修所教官→東京地裁部総括→那覇地所長→東京高総括→定年退官

歴代所長の経歴比較

全国地家裁所長の出身大学・級班区分・男女別

歴代就任者	出身大学等						級班区分							男女別	
	東大	京大	国公立大	私大	その他	不明	S1	S2	S3	A1	A2	B1	B2	男	女
929	326	165	184	230	5	19	24	53	113	302	372	65	0	909	20
(%)	35.1	17.8	19.8	24.8	0.5	2	2.6	5.7	12.2	32.5-	40	7	0	97.8	2.2

福岡高裁管内地家裁所長の出身大学・級班区分・男女別

歴代就任者	出身大学等						級班区分							男女別	
	東大	京大	国公立大	私大	その他	不明	S1	S2	S3	A1	A2	B1	B2	男	女
233	71	44	61	51	1	5	3	4	25	62	125	14	0	229	4
(%)	30.5	18.9	26.2	21.9	0.4	2.1	1.3	1.7	10.7	26.6	53.6	6	0	98.3	1.7

那覇地裁・那覇家裁所長の出身大学・級班区分・男女別

歴代就任者	出身大学等						級班区分							男女別	
	東大	京大	国公立大	私大	その他	不明	S1	S2	S3	A1	A2	B1	B2	男	女
42	5	12	11	13	0	1	0	0	9	12	18	3	0	40	2
(%)	11.9	28.6	26.2	40	0	2.4	0	0	21.4	28.6	42.9	7.1	0	95.2	4.8

福岡管内、那覇地・家裁の傾向的特徴

- 福岡高裁管内の歴代地家裁所長の傾向的特徴
 - 1) 出身大学: 国公立大卒が多い(九大卒33人)。
 - 2) 級班区分: S級が少なく、A級2班が多い。

★高裁長官、最高裁裁判官に達するのは例外的。
- 歴代那覇地裁・家裁所長の傾向的特徴
 - 1) 出身大学: 私大卒が多い(40%)。
 - 2) 級班区分: S1とS2はゼロ、S3とA1が多い。

那覇地裁、那覇家裁所長の就任形態

就任形態	a	b	c	d	e	f	判別不能
那覇地裁	0	0	2	2	10	3	4
那覇家裁	0	0	8	0	9	4	3

- a 高裁長官待機
- b 登竜門
- c 中継点
- d 上がり
- e ブーメラン
- f 箔付け

那覇家裁→那覇地裁: 12例
「セット・ブーメラン」: 7例

ブーメラン勤務 = S3、A1の多さ



高裁長官に石田穰一、北山元章

平田清祐が求めた「北海道方式」

「やはり東京の方が何といても優秀な人材が揃っていることは確かなので、わたしは裁判官の人事問題については、なるべく東京からの派遣をお願いし、沖縄の裁判官も出来るだけ東京高裁管内に送って鍛えていただくよう折衝した。

戦前、沖縄に赴任する役人は一般的に質が良いとは言えなかった。それは沖縄にとって不幸なことだった。私はこの際、立派な裁判官を沖縄に配置してくれるようお願いしたのだった。

最高裁は俗に「北海道方式」と言われる人事システムがある。つまり北海道に勤務したら、その後は東京の重要なポストに配置するという方法だ。沖縄も北海道同様に二、三年したら、必ず東京に栄転させてほしいということを要求した訳である。」平田清祐(1990)212頁。

平田首席判事と矢口人事局長

平田首席判事と矢口人事局長



首席判事室にて(1972年1月) 左から矢口洪一最高裁
人事局長、真田秀夫法制局第一部長、一人おいて著者

矢口人事局長の人事方針

「人事局長として、特に私がやったことは、昭和47(1972)年5月の沖縄返還に絡む法曹の問題です。…当時、沖縄の法曹は全部で360名くらいでした。…「[沖縄弁護士特別措置法]により、2回の選考を行って、大部分の方を合格させました。

資格を与えた以上は…できるだけ本土に採ると同時に、こちらからも最優秀な人材を送るべきだということで、いろいろ交渉しました。

沖縄に福岡高裁の支部ができましたので、支部長には藤井一雄君に行ってもらいました。東京高裁の刑事の判事で…刑事では一番良くできると言われていた人です。」矢口(2005)199-200頁。

札幌管内所長の定着地の傾向

地家裁所長 (総数)	定 着 地							
	東京	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松
札幌地(19)	13	4	0	0	0	0	1	1
札幌家(21)	15	4	0	0	0	0	1	1
函館地・家(20)	15	4	1	0	0	0	0	0
旭川地・家(20)	15	3	2	0	0	0	0	0
釧路地・家(20)	10	5	3	0	0	1	0	0
100	68	20	6	0	0	1	2	2
(%)	68	20	6	0	0	1	2	2

★大半が東京高裁管内からのブーメラン勤務

福岡管内所長の定着地の傾向

地家裁所長 (総数)	定 着 地							
	東京	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松
福岡地(11)	1	0	0	0	10	0	0	0
福岡家(17)	5	1	0	0	11	0	0	0
佐賀地・家(21)	15	2	0	0	4	0	0	0
長崎地(20)	10	3	1	1	5	0	0	0
長崎家(22)	4	10	0	0	8	0	0	0
大分地・家(21)	11	5	0	1	4	0	0	0
熊本地(21)	10	4	0	0	6	0	1	0
熊本家(19)	8	6	1	0	4	0	0	0
鹿児島地・家(21)	9	3	0	0	8	0	0	1
宮崎地・家(18)	8	3	0	0	7	0	0	0
那覇地(20)	13	1	0	0	5	0	1	0
那覇家(22)	13	1	1	0	7	0	0	0
233	107	39	3	2	79	0	2	1
(%)	45.9	16.7	1.3	0.9	33.9	0	0.9	0.4

東京定着者の最終到達ポスト

最終到達ポスト (総数)	高裁長官	高裁総括	東京管内の 地家裁所長	その他管内 地家裁所長	現職所長
那覇地裁(13)	2	8(5)	1	1	1
那覇家裁(13)	1	5(4)	2	4	1

()内は東京高裁総括で内数



亀川清長・現那覇地裁所長

★沖縄県出身の所長4人のうち3人は、
東京管内家裁所長へ

地家裁所長人事のあり方

裁判所法

- **第29条** **最高裁判所は**、各地方裁判所の判事のうち一人に各地方裁判所**所長を命ずる**。
- **第31条の5** 第27条乃至第31条の規定は、**家庭裁判所にこれを準用する**。

★最高裁＝最高裁事務総局人事局→最高裁裁判官会議



76の地家裁所長ポスト:それぞれ独自の位置付けがある

例)「三強ポスト」「ブーメラン勤務地」

「ブーメラン勤務地」のこれから

これまで

1. 「立派な裁判官」の配置
2. 東京の「植民地」ポスト化

これから

1. 「セット」人事の解消
2. 脱東京「植民地」化

★裁判官人事の地殻変動



最高裁：裁判所のHPより

参考文献

- 最高裁事務総局編『裁判所時報』各号、法曹会。
- 最高裁編(2008)『裁判所データブック2008』判例調査会。
- 日民協編(2004)『全裁判官経歴総覧 第四版』公人社。
- 平田清祐(1990)『首席判事物語』非売品。
- 矢口洪一(2004)『矢口洪一オーラル・ヒストリー』政策研究大学院大学
- 拙著(2005)『日本司法の逆説』五月書房。
- 拙稿(2008)「司法官僚の経歴的資源」『明治大学社会科学研究所紀要』46巻2号。
- 拙稿(2009)「全国地家裁所長の人事パターンの制度化に関する一考察(Ⅰ)(Ⅱ)」明治大学『政経論叢』77巻3・4、5・6号。

ニフエーデービル

ニフエーデービル